

#### 14. 小ホール客席計画

小ホールは収容人員 300 席程度とする。大ホールと同じく、音楽を主目的とした多機能ホールとするが、大ホールがチケット公演によるプロ仕様であるのに対し、小ホールは市民ユースの使いやすいホールとする。また、ホテルのパンクettのようなパーティー・宴会を催すことができるように平土間形式にも対応させる。

そのため、客席は全て可動式とし、ロールバックチェア方式等によって後方壁面に収納する方式をとる。

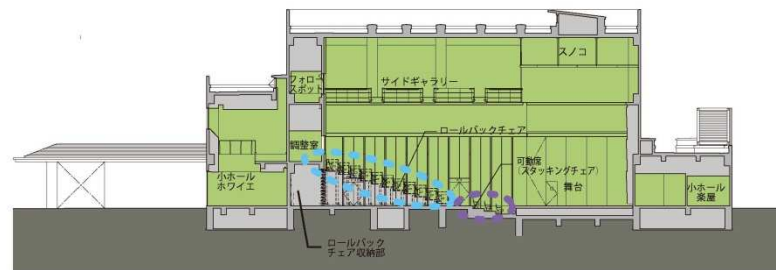
##### ・利用形式

[劇場形式] 客席 300 席

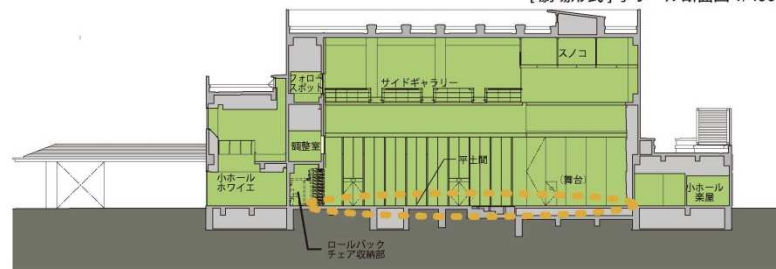
劇場形式では大ホールに比べ、より近い距離で演奏・演技を楽しむことができる。ロールバックチェアの架構は、通路を歩く人の出す音が席に座る人になるべく伝わらないよう頑丈な機構のものとする。

[平土間型式]

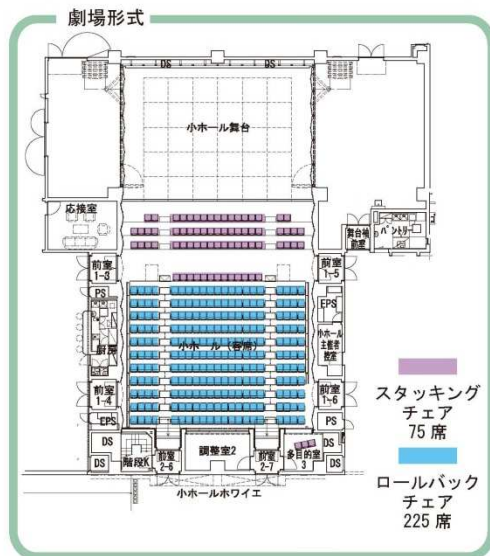
平土間使いでは舞台を含めると約 26m×14m の範囲が利用できるようになっており、宴会での利用のほかマーチングバンド等の練習や社交ダンスのような使い方も可能となる。



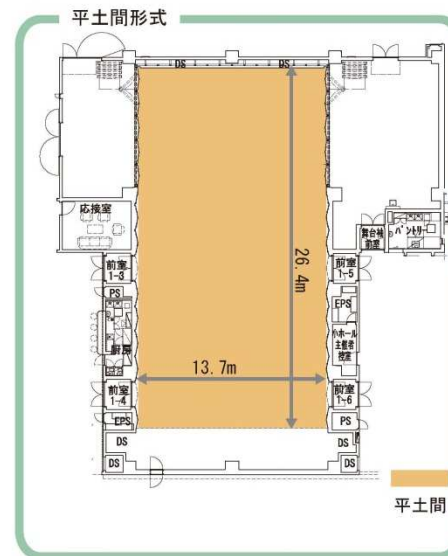
[劇場形式] 小ホール断面図 1/400



[平土間形式] 小ホール断面図 1/400



劇場形式



平土間形式